

品質工学研究発表大会でW受賞

今年の6月26、27日の両日、東京都品川区の品川区立総合区民会館（きゅりあん）で開催された第22回品質工学研究発表大会（QES2014）において、101件の発表の中から当センターの水野研究員が公益財団法人精密測定技術振興財団 品質工学賞 発表賞 銀賞を、高辻副主任研究員らが品質工学会 会長賞を受賞しました。これらは昨年度の高辻副主任研究員らの発表賞 金賞の受賞に続く快挙です。

2014年度 公益財団法人精密測定技術振興財団 品質工学賞 発表賞 銀賞	
発表題名	MTシステムによる赤潮発生判別の試み
受賞者	水野 健一郎
2014年度 品質工学研究発表大会 品質工学会 会長賞	
発表題名	合成樹脂材を用いた養殖かき採苗法の検討
受賞者	高辻 英之, 水野 健一郎

過去40年超にわたる赤潮研究の中で、発生予察技術に関しても取組まれてきました。今回「MTシステムによる赤潮発生判別の試み」で、既存データを用いて品質工学のMTシステムという解析法による検討をした結果、高い精度でカレンシア・ミキモトイ赤潮の発生判別ができるようになりました。今後はより詳細な発生時期・出現規模の予測や、他の有害種やかきの餌となる珪藻類の出現予測に展開していきます。

「合成樹脂材を用いた養殖かき採苗法の検討」は現在、事前研究で進めている「殻付かきの高付加価値化技術の開発」の中の1テーマです。新たなニーズへの対応や作業性の向上を目指して、現行のホタテ貝殻に代わるものとして合成樹脂製の採苗器の条件最適化を行いました。その結果、採苗器内分布が均質な種苗を得られるようになりました。今後はさらに採苗器の機能を高め、実用化を目指しています。

品質工学会の会員は自動車メーカー、事務機器メーカー等の民間企業の研究者・技術者が大多数をしめており、公設研究機関・大学の研究者が少ないため、通常の学術学会とは趣が異なります。品質工学はスピード感と実利を重んずる民間企業で広く採用され、品質管理やコスト削減、新商品開発等で企業業績に貢献しています。総合技術研究所ではいち早く品質工学の有効性に注目し、技術開発に活用することを推奨してきました。農林水産系研究における品質工学活用の事例が少な

いため、二人ともこの度の研究では困難を極めたようですが、広島市主催の品質工学研究会への積極的参加と研究員個人の不断努力によって今回の成果につながりました。昨年発行の水産と海洋（No. 24）の発表賞金賞受賞報告の中で「今後は、かきの生産技術の高度化や赤潮予測などにも品質工学を展開していくことで、水産海洋技術センターの技術開発力の向上を図りたい」と表明していましたが、その努力がW受賞という形で学術学会から高く評価されました。

銀賞



会長賞

